

令和5年度 第1回高等学校入学者選抜審議会 記録

令和5年7月26日(水) 10:00~12:00
 県庁11階 第二会議室

＜審議会委員＞

田端 健人 委員、川嶋 輝彦 委員、高橋 千香子 委員、志小田 美弘 委員、田中 元昭 委員、
 伊藤 宣子 委員、小野 ゆかり 委員、本木 一昭 委員、猪股 智秋 委員、高橋 賢 委員、
 中山 治彦 委員

(欠席：熊谷 龍一 委員、坪田 益美 委員、浅野 直美 委員、勅使瓦 理恵 委員、徳能 順子 委員)

＜県教育委員会＞

佐藤 靖彦 教育長、佐々木 利佳子 副教育長、
 千葉 潤一 参事兼義務教育課長、遠藤 秀樹 参事兼高校教育課長

(欠席：佐藤 芳明 副教育長)

| | |
|--------|--|
| 事務局 | (資料の確認) (公開の確認) |
| | (開会) |
| 事務局 | (委嘱状・辞令交付) (委員の紹介) |
| 佐藤教育長 | (教育長あいさつ) |
| 事務局 | (県教育庁関係出席者紹介) (本会議の概要説明) |
| | (委員長 司会進行開始) |
| 委員長 | それでは次第に沿って進める。 初めに諮問となる。事務局から願います。 |
| 事務局 | 諮問文を教育長から委員長へお渡しする。委員長、教育長は御移動願う。 委員の皆様は、資料1、諮問審議関係資料1ページの諮問文を御覧願う。 |
| 佐藤教育長 | (諮問) 「令和7年度宮城県立高等学校入学者選抜方針について」 「令和7年度宮城県立高等学校入学者選抜日程について」 |
| 事務局 | (事務局より、諮問の読み上げ確認) (別紙1) 令和6年度宮城県立高等学校入学者選抜方針について (別紙2) 令和6年度宮城県立高等学校入学者選抜日程について |
| 委員長 | では、審議に移る。 審議1「令和7年度宮城県公立高等学校入学者選抜方針」について、事務局から説明願う。 |
| 事務局 | (事務局より説明) |
| 委員長 | 以上の説明について、質問、意見があれば発言願う。 |
| 志小田委員 | 意見ではないが、一つ質問したい。7、通信制課程に関する選抜のところ、 「当該高等学校長は上記によらず、選抜を行うことができる」と記載があるが、具体的にはどのような選抜が想定されるのか。 |
| 高校教育課長 | 「上記によらず」という点については、2ページに選抜についての様々な記載があるが、これによらずということの意味している。学力検査を行わず、面接による選抜を実際に行っているということで、このような記載にしている。 |
| 委員長 | 他、質問、意見があれば発言願う。 (特に意見なし) 特に意見が無いようなので、審議2「令和7年度宮城県立高等学校入学者選抜日程」について、事務局から説明願う。 |

| | |
|---------|--|
| 事務局 | (事務局より説明) |
| 委員長 | 説明感謝する。令和7年度入学者選抜日程について、事務局から3つの案が示された。それぞれにメリット・デメリットがある。 これについて、質問、意見等あれば発言願う。 |
| 本木委員 | 昨年度のこの委員会でも確認させていただいたが、案3の、追試験日が本試験の学力検査日と非常に近いということについては、やはり不安を覚える。 新型コロナウイルス感染症の状況、あるいはインフルエンザの状況を考えたとき、いまだに学級閉鎖等が続いている現状がある。受験生に与える不安を考えると、余りにも追試験が近すぎると感じる。そうすると追試験を受けられず、第二次募集などに回ることが多くなる場合も考えられる。追試験の場合は第一次募集に準ずるわけだが、第二次募集となると、試験の科目も変わってくる。この辺りについては、やはり追試験日程が近すぎるとということについての検討が必要ではないかと感じている。 |
| 委員長 | 発言感謝する。 新型コロナウイルス感染症、あるいはインフルエンザ等に罹患した場合の対応について、追加の説明はあるか。 |
| 高校教育課長 | 昨年度も説明させていただいたが、新型コロナウイルス感染症の対応については、冒頭の教育長の挨拶にもあった通り、追試験が第一段階の受験機会の確保として設定してある。 回復が追試験まで間に合わなかった場合には、第二次募集の日に行う試験を追々試験という形で受けていただき、それでもなお体調が回復しなかった場合には、書類による審査を行う、というように、3段階で受験機会を確保する形で対応させていただいた。 今、お話をいただいた追試験日程の近さという点については、先ほど事務局から説明申し上げた通り、これまで実施してきた、コロナ禍の受験機会の確保に準ずる形で、第二次募集に合わせて追々試験等を行う、というところを基本としながら、今後慎重に検討を進めて参りたい。 |
| 委員長 | 説明感謝する。 他にいかがか。 |
| 伊藤委員 | ただ今の説明を聞き、納得した。 |
| 委員長 | 発言感謝する。 今年度は、新型コロナウイルス感染症の事例等はいかがであったか。 |
| 高校教育課長 | 今年度、追試験の申請があった生徒数は28人であった。 そのうち、新型コロナウイルスに感染、あるいは濃厚接触等に指定された、コロナ関連の追試験申請は11人という状況であった。 なお、その前年度は、追試験の申請が110人で、うち新型コロナウイルス関連が100名だったので、前年と比較すると大幅に減少した状況である。 |
| 委員長 | 他にいかがか。 |
| 高橋(賢)委員 | 追試験日程についてである。先ほどから問題になっている、学力検査日・追試験の期間が中2日ということについては、今年度も中2日なので、今回実施してどのような問題点が出てくるか、ということもあるとは思いますが、この段階で決めるとなったときに、やはり不安が大きくなれば、例えば追試験を10日に実施するという案は検討できないだろうか。その場合、高校側としては、そこから先の選考日程が非常に厳しくはなるが、そのような案もあるのかどうかを伺いたい。 |
| 高校教育課長 | 今お話いただいた通り、10日に追試験を設定すると、高校側ではそこから可否の選抜ということになり、その問題点が解消されれば、特に支障はないと考える。しかし、高校側にとっては相当苦しい日程になるであろうことを勘案し、今回は第3案を提示させていただいた。 今、多くの意見をいただいているところだが、今後も様々な機会を捉え、様々な立場の方々から意見を伺いながら検討して参りたい。 |

| | |
|--------|---|
| 委員長 | <p>発言いただいた10日の日程案となると、提示された案の中では第2案ということになる。この場合、第一次募集の合格発表が金曜日になってしまう。そうすると、土日を挟むため、第一次試験でうまくいかなかった生徒に対し、第二次募集に向けてエンカレッジすることができないといった問題が、第2案の大きなデメリットではないかと考える。</p> <p>他、意見あれば発言願う。 (特に意見なし)</p> <p>第3案にしても、かなり窮屈な日程で、受験生に負担を強いることにはなる。この点については、本日の意見を参考に各委員にさらにお考えいただき、あわせて事務局でも吟味するというので、これに関する結論は次回ということによろしいか。</p> <p>(異議なし)</p> <p>異議がないようなので、諮問案についての審議は以上とする。</p> |
| 委員長 | 次に、審議3「高校入試におけるWeb出願の導入及び調査書記載事項の精選等についての調査研究」について、事務局から説明願う。 |
| 事務局 | (事務局より説明) |
| 委員長 | <p>説明感謝する。</p> <p>専門委員会設置の可否についてだが、説明について、質問、意見等あれば発言願う。</p> |
| 川嶋委員 | 専門委員会を設置するとは、Web出願を導入する前提ということか。「今このような課題がある」というような説明があったが、まずその点を確認し、Web出願に関して、経済人として意見を申し上げたい。 |
| 高校教育課長 | <p>発言感謝する。資料8ページ記載の通り、他県において導入している実績があるが、これらの県においても、一律に、同じように運用しているかというところではない。おそらく、先進的に取り組んでいる自治体においても、Web出願を導入してのメリットもあれば、課題もあるだろうと考えている。</p> <p>私どもとしては、まず専門委員会において、これらの先進的に取り組んでいる自治体等の情報をしっかりと整理し、どういったメリットが考えられるかということと併せて、どういった課題が生じるかというところについても、しっかりと見ていきたいと考えている。その上で、委員の皆様から意見等を伺い、Web出願導入の実現可能性について探って参りたいと考えている。</p> |
| 川嶋委員 | <p>では、その前提で申し上げる。私はWeb出願については、ぜひ導入すべきだと考えている。</p> <p>私の子供3人が大学受験、就職をしている。3人目はまだ大学に在学しているが、大学入学共通テストの申し込みや、就職する際のエントリーシートの提出などは、すべてWeb出願になっている。</p> <p>よくデジタルネイティブなどと言われるが、子供たちはそういったことに小さい頃から慣れている。確かに、書類上の不備とか、きちんとエントリーできているのかとか、あるいはセキュリティ上の問題や個人情報の保護等、課題はたくさんあると思う。しかし、新しい技術を導入するときには必ず課題は生じる。</p> <p>今、マイナンバーカードの問題などもあるが、結局、技術は進んでいる。皆さんも、例えばスマホで当たり前のようにデジタル決済をされたりしているだろう。様々な場面で利便性のほうが勝っていると考えてるので、ぜひ導入するという方向で、色々な課題を検討していくべきではないかと思う。</p> <p>デメリットを並べると何もできなくなってしまうし、大学受験であれ、就職試験であれ、高校で経験したものを活かせるわけだから、ぜひそういう方向で検討されてはいかがか。</p> |
| 伊藤委員 | <p>今の川嶋委員の意見だが、全くその通りだと考える。</p> <p>私学でWeb出願に踏み切った時も、それぞれの学校では不安だらけだった。その業界の方々と多くの時間を使いながら、経験を重ねてきたということがある。</p> <p>もうDXという形で、前に進むしかない。前に進めるように、子供たちも親御さんも、そして学校現場の教職員たちも、新しい技術を使える、そういう人になってい</p> |

| | |
|---------|---|
| | <p>く、そういう時期に入っていると考える。 ぜひ実施することを前提として、検討を進めていただきたい。</p> |
| 委員長 | <p>発言感謝する。 他にいかがか。</p> |
| 高橋（千）委員 | <p>保護者の立場から申し上げますと、郵便事情が今、あまり良くないということがあ る。 子供が学校から帰ってきて、親が共働きで、家にいない場合がある。夜遅く帰っ てきた親と、塾に行った中学生がすれ違いになっている状況も多々ある。そうす ると、親子がすれ違った状況のまま、大事な書類が、保管というか放置されている可 能性もある。 今、中学校でのやりとりなどは、「まなびのポケット」（※学校向けの教育クラ ウドサービス）というようなものを利用して行うことができる。こういったものを活 用して、親はいつでも、どこにいても確認することができるというメリットはとて も重要だと思うし、助かっている。</p> |
| 委員長 | <p>発言感謝する。 他にいかがか。</p> |
| 猪股委員 | <p>私立がWeb出願になり、働き方改革の面から、私達は大分楽になった。そういう 意味で、慣れた部分もあるのでぜひ公立でも、という声が、先生方の中では非常に高 くなっている。 また、調査書の記載事項の精選等についてだが、やはり子供たちにとっては、高校 入試は近い将来の夢の実現のようなどころがあるので、「部活動はやはりやらなけ れば」とか、地域移行を妨げてしまうような思いもあると思う。 調査書の検討も早く動くことで、地域移行が進むのではないかと、ひいては働き方 改革にもつながるのではないかと考える。 ぜひ専門委員会の設置をお願いしたい。</p> |
| 志小田委員 | <p>これまで出た意見についてはその通りだと思う。時代の要請ということであろう。 加えて、部活動についてだが、皆さんご存じのとおり、今までの部活動とは変わっ ているし、今後も変わっていく。すでに、どの学校も同じように部活動を設置し、同 じように活動している、という状況ではなくなっている。 民間の事業者が部活動の指導に入っているところもあれば、合同で部活動をやっ ているところもあり、またスポーツクラブのようなどころがやっていて、それがも う中総体に参加できる、というように変わっている競技もある。 これまでとは全く変わってきている、ということも踏まえていただいて、ぜひ専 門委員会の中で検討をお願いしたいと考える。</p> |
| 田中委員 | <p>専門委員会の設置については賛成である。 （２）で挙げられている調査書記載事項の精選等について、現時点でのイメージ を確認したい。「口 通知」として例に挙げられているもの以外も含めて、幅広く調 査書の内容について検討していく、というイメージで受けとめてよろしいか。</p> |
| 高校教育課長 | <p>お話いただいた通り、今、部活動について色々と話題にさせていただいたところだ が、それ以外の項目も含めて、調査書というものはどうあるべきか、というところ で、少し時間がかかると思うが、検討させていただきたいと考えている。</p> |
| 高橋（賢）委員 | <p>皆さんの意見を伺い、私も進めていくべきだとは思いますが、一番気になっているの はやはり調査書の問題である。全てを電子化することについては、かなり慎重にな らなければならないと考える。 特に、中学校で書類や申し込みを電子化することはいいのだが、受験生が直接申 し込んで、添付する調査書も中学校から直接来る、というような形になると、中学校 と高校との繋がり、あるいは中学校と高校とがコミュニケーションを取る場という 面では懸念がある。最近生徒の状況も多様化しているので、調査書の様々なポイ ントについて、中学校と高校がコミュニケーションを取れる状況が無くならない形 で、電子化を進めていただきたいと思う。調査書のあり方等については、十分な検討 が必要であると思う。</p> |
| 委員長 | <p>発言感謝する。他にいかがか。</p> |

| | |
|--------|--|
| 高校教育課長 | <p>様々な意見をいただいたことに感謝する。</p> <p>専門委員会の設置については、概ね了解をいただいたと感じている。様々な観点から、いただいた意見を踏まえながら、専門委員会においてしっかりと、時間をかけて、慎重に検討して参りたい。</p> |
| 委員長 | <p>他にいかがか。</p> <p>(特に発言なし)</p> <p>では、Web出願についても、調査書についても、時代の流れ、大きな変わり目ということもあり、専門委員会の設置については、異論はなかったと認識している。</p> <p>またWeb出願については、比較的、肯定的・積極的な意見が多かったが、慎重にならなければいけないという声もあった。すでに導入している自治体においても、導入の仕方は色々あると思うので、その辺りを踏まえ、専門委員会で準備を重ねていただきたい。</p> <p>事務局には、日程調整等よろしく願います。</p> <p>では、報告に移る前にここで休憩を取る。休憩時間は概ね5分とし、10時55分からの再開とする。</p> |
| | (休憩 5分) |
| 委員長 | <p>では、再開する。</p> <p>報告事項に移る。まず、報告1「令和5年度宮城県立高等学校入学者選抜結果」について、事務局から報告願う。</p> |
| 事務局 | (事務局より説明) |
| 委員長 | <p>報告1について、質問、意見があれば発言願う。</p> <p>(特に発言なし)</p> <p>では、報告2の「令和6年度宮城県公立高等学校入学者選抜」について、事務局から報告願う。</p> |
| 事務局 | (事務局より説明) |
| 委員長 | 報告2について質問、意見があれば発言願う。 |
| 伊藤委員 | 令和6年度の中学校卒業予定者数をお聞かせいただきたい。 |
| 高校教育課長 | 今、資料を確認しているので、少々時間をいただきたい。 |
| 委員長 | <p>では、その間に、他にいかがか。</p> <p>令和5年度については、全日制では出願倍率が1.02倍で、定員は120人の減、という説明があった。少子化の勢いはかなり加速している。</p> <p>定数減の内訳も説明いただいたように、5ページの※3の①、②、③に、学級減と募集停止等の記載がある。また、定時制高校については、なお一層充足率がよくない状況である。</p> |
| 高校教育課長 | 大変失礼した。来年度、令和6年度の中学校卒業生数の見込みは、19,668人と推計している。 |
| 委員長 | <p>よろしいか。他にいかがか。</p> <p>(特に発言なし)</p> <p>では、報告3の専門委員会報告に移る。</p> <p>まず、「宮城県公立高等学校入学者選抜の実施に係る検証結果」について、専門委員会の熊谷委員長が欠席のため、専門委員を兼務する小野委員から報告願う。</p> |
| 小野委員 | (小野委員より専門委員会最終報告) |
| 委員長 | <p>報告感謝する。</p> <p>専門委員会報告について、質問、意見があれば発言願う。</p> <p>(特に意見なし)</p> <p>入試日程の一本化については、不安がなかったわけではないが、悉皆のアンケートをもとにした声として、一定の成果が得られたという評価だったと思う。また、新制度の課題については、報告があった通り、求める生徒像、あるいは選抜日程とあり、求める生徒像についてはまた次の議案で検討したい。</p> <p>他にいかがか。</p> <p>(特に発言なし)</p> |

| | |
|---------|--|
| | では次に、報告3の口「求める生徒像の改善の方向性」について、事務局から報告願う。 |
| 事務局 | (事務局より説明) |
| 委員長 | 説明感謝する。 求める生徒像のわかりにくさ、伝わりにくさについて、3つの観点にその要因を分解し、その一つ一つについて、丁寧に検証を重ねていただいた。 そして13、14ページの改善案を見ても、色々な点を細かく改善するだけで、かなり印象が変わるという感想を持った。 今の説明について質問、意見等あれば発言願う。あるいは、「もっとこういう点を改善したらよい」というようなご意見もあろうかと思うが、いかがか。 |
| 高橋(千)委員 | とても見やすくなり、中学生である14歳、15歳に満たない子供たちが興味をもって見るという意識が今より格段に上がると感じた。 もう一つ言うならば、例えばカラーにするとか、写真、地図などがあると、具体的に自分の家から近いとか、どうやって通うかなど、イメージがしやすくなると感じる。これは大人にとってもかなりのページ数になるので、文字だけの情報だと子供にとっては負担が大きいのではないかと感じている。 私立高校の学校説明のパンフレットは、色々な情報が読みやすく、手に取りやすく作られているので、それと比較すると、作り方が大人の視点になっていると感じる。 子供が実際に通う学校なので、親として子供に学校を選ばせたい、ということも基準の一つになるのであれば、子供が手に取りやすいような紙面の工夫を、もう一つ付け加えて欲しいという思いがある。 |
| 高校教育課長 | 貴重な意見に感謝する。 今意見をいただいたように、文字情報だけではなく、例えば地図や動画など、そういうものにリンクを貼るということも考えられると、意見を伺って感じたところである。ただ、冊子にするとなると、どうしても様式を統一してまとめなければならないという限界もある。それで今回、14ページの改善案として示した通り、二次元コードを掲載することで、学校のホームページに簡単にアクセスすることができるようにしている。学校のホームページは、例えば今意見をいただいた地図情報や、学校の様々な取組がカラーで見られるようになってきている。 また公立高校ガイドブックについては、これも文字情報が中心になっており大変恐縮ではあるが、資料16ページには、学校行事あるいはそれぞれの学校の特色ある活動等について、写真入りで、Web上ではカラーで確認することが可能である。 学校のホームページとガイドブックとの両方をしっかりと見比べていただき、さらに色々な学校ごとに調べていただくことで、中学生たちが、「この学校はこういう特色があるのだな、こういう魅力があるのだな」ということを、保護者の方と一緒に感じ取っていただけるようにしていきたいと考えている。 なお、その工夫の余地があるかどうかという点については、また検討を重ねて参りたいと思う。 |
| 委員長 | これは、各学校のパンフレットとは、ちょっとタイプの違うものなのだろうか。 |
| 高校教育課長 | 公立高校でも、学校ごとに学校案内のパンフレットをカラーで印刷している。ただし、様式は学校ごとに任されているためそれぞれである。例えば学校説明会といった場で、中学生あるいは保護者の方々に配布させていただいている。 その他にもう一つ、県の教育委員会で作成している資料としてあるのが、15・16ページの公立高校ガイドブックである。これは全ての公立高校について、同じ様式、同じ項目で作っている。これを高校教育課のホームページに一覧表として掲載しており、そこで学校ごとにアクセスしていただくと、これが出てくることになる。 同じ様式であることで比較をしやすくなるのが、一つのメリットであると考えている。今後、中学校、高校の先生方や、中学生、保護者の皆さんに、「こういう情報があるのでアクセスしてください」ということを、しっかり発信をして参りたいと考えている。 |
| 委員長 | 公立高校ガイドブックは、形式が決まっているということか。 |

| | |
|---------|---|
| 高校教育課長 | その通りである。公立高校ガイドブックは、全ての学校で同じ様式で作成している。全ての学校が一覧で並んでおり、学校名をクリックするとこれが出てくる。また、それぞれの学校のホームページ上からもアクセスすることが可能となっている。 |
| 委員長 | 桃色の冊子（「求める生徒像・選抜方法一覧」）は、どのような場面での活用を意図しているのか。あるいは、どのような場面で実際に活用されているのか。 |
| 高校教育課長 | これは主に中学校の進路指導等で活用されることを想定している。進路選択にあたり、その学校がどのような学校であるかという概要を掴んでいただくとともに、どのような選抜が行われるのかについても、同じ様式で示すことで比較検討が容易にできるように、という配慮をして作成しているものである。 本日は中学校の校長先生方もいらっしゃるのので、実際にどういった場面でのということについて、お話をいただければありがたい。 |
| 委員長 | 中学校で実際に使ってみて、あるいは高校で作成してみて、というところで意見をいただきたい。いかがか。 |
| 猪股委員 | 公立高校ガイドブックは、子供たちが高校受験について、ある学校とある学校で迷っているときに比較するためであるとか、学校の特色やどのような授業が行われているのかを調べるために見ている。 こちらのピンクの冊子（「求める生徒像・選抜方法一覧」）は、受験がいよいよ迫ってきた段階で、進路指導の時に、担任と子供が選抜方法について確認するために見ている。また、求める生徒像というものが書いてあるので、面接等がある高校だと、これをじっくりと読み、志望動機をしっかりとまとめるといった指導に用いる。 こちらのピンクの冊子は、具体的に受験に向かう段階で使っている状況だ。 |
| 委員長 | 発言感謝する。大分具体のイメージが湧いてきた。 他にいかがか。 |
| 本木委員 | 改善の手立てについては、具体的に示していただいているので、ぜひこういう方向で、各高校で改善されていくことを望みたい。 一方で、中学校サイドからすると、特色選抜と共通選抜のどちらで合格したのかわからないために、次年度以降の進路指導に生かしていくことがなかなか難しいという声も多く聞かれる。 この点について、何か改善の余地、あるいは検討の余地はあるか。 |
| 高校教育課長 | 今回の検証を進めていく中で、質問紙調査の結果を拝見し、今いただいたような意見があるということは承知している。 そういったところを取り入れることができるかどうか、また取り入れた時にどのような弊害が生じるかということについて、今検討しているところである。そのような状況であるということで、まずは理解をいただければと思う。 |
| 委員長 | そのあたりが開示されるようになると、また明確になる部分も出てくるかも知れないが、開示する弊害もあろうかと思うので、さらに検討を進めて対応いただきたい。 |
| 田中委員 | 説明に感謝する。「わかりやすさ」という話や、加えて「中学校での活用状況」という話があったので、少し付け加えるとすれば、先ほど主に中学校3年生の進路指導で、あるいはいよいよ受験が迫ってきた段階で活用されているという話もあったが、実際、中学校現場においては、中学1年生、2年生においても、進路学習や高校調べなど、特別活動や総合的な学習の中で学習をしている。 そういう意味では、中学3年生に限らず、中学校1年生、2年生が、この公立高校ガイドブックや、高校のホームページなどを見たとき、わかりやすく記載されているということは、非常にありがたいことなのではないかと思う。 |
| 委員長 | 発言感謝する。 中学生にとっては、特にこの冊子（「求める生徒像・選抜方法一覧」）は、いざ受験するということに熟読する中学生もいるということからすると、かなり重要な資料といえるかと思う。高校側の意見はいかがか。 |
| 高橋（賢）委員 | 公立高校側、作る側として話をさせていただくが、各高校においては、中学生に受験してもらいたい、志望してもらいたいと、手を尽くしながら、色々なアイデアを出しながら、広報活動をさせていただいている。 |

| | |
|------|--|
| | <p>その中で、今も話題となった高校教育課でまとめている資料、公立高校ガイドブックや、「求める生徒像・選抜方法一覧」についても、各学校で工夫して作成している。また、学校のパンフレットについては、例えばこのようにカラー刷りで作成し（※所属校の学校パンフレットを提示しながら）、志望している中学生に、オープンスクールなどで配布している。パンフレットにはもちろん学校の特色や、「求める生徒像・選抜方法一覧」に掲載されている入試の選抜の仕方も載っているの、こちらを用いながらオープンスクールで説明しているというのが現状である。</p> <p>求める生徒像について、生徒や保護者がわかりにくさを感じるということは、調査結果からもわかるし、このように整理して示された課題についても、非常によくわかる。</p> <p>これから、令和7年度の入試に向けて、各学校で検討していかなければならないと思う。よりわかりやすい表現を、というところで、特に課題に挙げた特色選抜は、各学校の特色が最も出ているところなので、そこについてはきちんと、求める生徒像との関連性がわかるように示していかなければならないし、そうすることで、中学生にとってはよりわかりやすくなるだろうと思う。</p> <p>ただ、最も悩ましいのは、最初の、この求める生徒像の文章である。先ほども話題にあがったように、具体性に乏しい表現があることは確かだが、生徒を受け入れる側、生徒にアナウンスする側としては、幅広い生徒に受験してもらいたいの、特化しすぎると、求める生徒像に当てはまっていないと考える生徒は志望しないのではないか、という懸念がある。具体性のない、当たり前のような表現になってしまうのは、そういうところを意識しているためでもある。悩ましい問題ではあるが、生徒募集については、今日の例にあったような具体的な文言というものを、各学校で探しながら、検討していきたいと思っている。</p> |
| 委員長 | <p>発言感謝する。</p> <p>中山委員も高校の経験がおありだが、いかがか。</p> |
| 中山委員 | <p>私も昨年度まで小牛田農林高校に勤務していたので、学校側としては、どのように学校の特色を伝えていくのかということは、やはり苦慮しているところだ。先ほど高橋委員が話された内容と、大体は同様である。</p> <p>特に、求める生徒像の記載に関しては、学校の特色を示していくことが必要だ。例えば前任校の場合、農業科学コース、農業土木コース、さらには総合学科という、多岐にわたる学科をそろえているので、非常に多くの項目を書き出さなくてはならない。それを集約していった時に、わかりづらさが出る可能性はあると思っている。</p> <p>しかし、やはり学校がアピールしたいポイントをできる限り精選して、ここに表現していかなければならない。学校側として、さらに内容を精選し、わかりやすさを追求することが必要である。そのような努力や工夫をしていくことが高校側には求められていると感じている。</p> |
| 委員長 | <p>発言感謝する。</p> <p>記載する側の難しさも、よく伝わってきた。そういう中で、出願倍率1.02倍ということで、定員割れも起きている現状もあるので、やはり高校側が常に言葉を選びながら、特色や求める生徒像をアップデート・リニューアルしていくことで、中学生に伝わることも多くなるのではないかと考える。</p> <p>そういった意味では、今回このような改善案を提案いただいたことは大きな前進になろうかと思う。</p> <p>他、ご意見いかがか。</p> |
| 伊藤委員 | <p>中学校までと違って、高校選びは中学生にとって、自分の人生をかけた選抜ということになると思う。高校のホームページや公立高校ガイドブック、こういうものを家族と見て、自宅で情報入手して、自分の人生を豊かにする。いわゆる先輩である親御さんたち、そういう方たちと家庭で語り合う中で、「学校に直接行ってみよう」というような、そういう思いをプレゼントできるという点では、宮城の子供たちの教育レベルがグッと上がってくのではないかと思う。</p> <p>中学校までは学区の学校に通うが、中学校から高校への進学は、自分の人生選びということになる。それを考えると、時代に合ったこの手法で、子供たちに夢を伝</p> |

| | |
|--------|--|
| | <p>え、子供たちは夢の実現のために学校を選ぶ、そういう宮城の教育が定着していくことが必要だと考える。今、高橋委員からも紹介いただいたが、各学校に行ってみないとそういうものが入手できない時代ではなくなっている。こういう形で情報をどんどん提供することで、子供たちは自分の人生を考えられる。そういう子供たちを育てていけないのではないかと、大変期待しているところだ。</p> |
| 委員長 | <p>発言感謝する。 そういう意味では、ホームページの二次元コードを載せるといった工夫も効果的であると思う。 他にいかがか。</p> |
| 川嶋委員 | <p>私は学校関係者ではないので、先ほどのPTA連合会の方と同じような意見を申し上げるが、少子化で子供が減っていくということは、供給が変わらなければ子供の選択肢は増えるということだ。 企業もそうであるが、日本の場合、供給過多と言われ、同じようなサービス、商品を提供している会社というものは、他の国に比べると圧倒的に多い。ということは、やはり「選ばれる」という考え方を持たなければならない。「選抜する」とか、「募集する」とかいうと、何かいかにも、選ばれる側に余計な負荷がかかるという印象を持たれると思うが、これは逆だと思う。子供が選ぶのである。 そうなると、例えば、こういう冊子にどう取り上げるかは難しいと思うが、子供自身に、この学校に入ってどんなところが良かったのかということを考えさせ、子供の言葉で発信をさせるということをしていかなないと、例えば「リーダーシップ」と言われても、何がリーダーシップなのかというのは、生徒会長として発揮するものなのか、部活の部長として発揮するものなのかがわからない。そういう視点も入れていかなければ、やはりわかりづらい。子供は大人の言葉で聞いてもわからない。 もう1点は、今の子供は色々なところから情報を入手しており、昔のように画一的な情報ルートしか持っていない状況ではないこと。インターネット等で自由に選択できる世の中になっている。私はあくまでも民間の企業が置かれている立場としてお話しするが、利用者が選んでいくという時代になってきているので、少子化という日本固有の問題も含めて、我々大人がしっかり考えていかなければならないと思う。そうしなければ子供に見放されてしまうのではないかと、正直なところ、私としては思っている。</p> |
| 委員長 | <p>発言感謝する。 高校は選ぶ側でもあり、選ばれる側でもあるという時代に差しかかっている。 県立高等学校では学校評価アンケートに、高校共通の項目を設けているが、学校によっては、「この学校に入学してよかった」という項目を独自に設けているところがある。実は学校評価アンケートも、比較すると生徒の回答状況が学校ごとに異なっており、これも中学生にとって非常に重要な情報になると同時に、高校側にとっても、そのアンケートと真摯に向かい合うことで、魅力を高めていく材料にもなるのではないかと思う。 他、意見いかがか。</p> |
| 高校教育課長 | <p>貴重な意見をいただいたと感じている。 特に、高校は選ぶ側であると同時に選ばれる側でもあるという認識は、我々にとっては本当に貴重な意見で、しっかりと受けとめなければならないと思う。それぞれの高校が、高校の魅力というものをどう作っていくのか、そして作ったものをしっかりと発信していく手だてが重要であるということが、今いただいた意見なのであろうと考えている。 まずは魅力ある教育を、学校の中でどのように実現していくかという検討とともに、それを発信する手立てについて、直ちにはなかなか難しいが、学校にしっかりと促しながら、少しずつ改善をしていきたいと思っている。 貴重な意見に感謝申し上げます。</p> |
| 委員長 | <p>では、報告については以上とする。 その他、委員から何かないか。（特になし） 事務局からはいかがか。</p> |

| | |
|-----|--|
| 事務局 | <p>次回の予定について連絡申し上げる。</p> <p>今回諮問した、令和7年度宮城県立高等学校入学者選抜方針及び日程について、答申をいただきたいと考えている。また、専門委員会で調査研究を行った内容について、報告をいただきたいと考えている。</p> <p>なお、第2回の審議会は11月中旬から下旬を予定しているが、後日メールにて日程を調整し、本日の記録確認をお願いする際に案内申し上げたい。</p> <p>さらに専門委員会の日程についても、事務局で別に調整し、案内する予定である。</p> |
| 委員長 | <p>では、次回の審議会、専門委員会の日程については、事務局で調整願う。</p> <p>本日の審議はこれまでとし、進行を事務局にお返しする。</p> |
| 事務局 | (閉会) |